

東京都渋谷公園通りギャラリー

交流プログラム「渋谷ギャラジオ」

令和56年度番組「展覧会のあと」

ゲスト4: 下町レトロに首っ丈の会さんとおかんアーティストの皆さんをお招きした回のうち、#16のテキストです。

○河原 では、ここからは、展覧会「Museum of Mom's Art ニッポン国おかんアート村」についてお話を聞いていきたいと思います。

改めてなんですが、この展覧会は、下町レトロに首っ丈の会さんと作家、編集者、写真家である都築響一さんをゲストキュレーターに迎えて企画されたものです。2000年代初頭からおかんアートと呼ばれてひそかに注目されてきた、ご婦人たちを中心とした一風変わった手芸作品という言い方でいいのかなと思うんですけれども、1,000点以上を紹介した展覧会となりました。

各地域、日本全国の地域の作り手によって、おかんアートは個々に素材やスタイルの工夫、そういう違いはあるんですが、どこか似ているという、そういう共通点も多いというのが特徴でした。東京都渋谷公園通りギャラリーの主なテーマである、専門的な美術教育とは関わらない作り手による創作の場や時間の在り方、その表現や魅力に迫った展覧会となりましたという感じですね。

そういった展覧会で、皆さん見に来てくださったので、にぎやかな、すごく明るい、多分うちのギャラリーでも一番すごい密度と楽しい状況があった展覧会だったと思うんですけれども、どうでしたかね、この展覧会に参加してどうだったかとか、あと下準備の裏話、今、淡路屋さんに河原が行かせていただいて、白手袋で作品を見させていただいて、ちょっと手袋が茶色くなったりとか。  
(笑)

○一同 (笑)

○河原 そういうこともあったりしたんですけれども、物すごい量の作品が2階には、宝の山という感じであったんですけど、どうですかね、ちょうど調査の頃がコロナの頃で、ちょうど今いるこのお部屋で多分作品を見せていただいたりとかした覚えはあって、都築さんもいたと思うんですけど、みんな汗だくになって、ここで何かぎゅうぎゅうに、おかんアートもぎゅうぎゅうで、人もぎゅうぎゅうでみたいな感じで、すごく皆さんが、コロナ禍関係なく、温かく迎えてくれたのをすごく覚えているんですけど、どうでしたかね、皆さん、展覧会を東京でやるみたいなことが話で来たときとか、反

応とか、どんな感じだったんですか。覚えていますか。

○一同 覚えていますよ。(笑)

○伊藤 すごく、でも何か、よそ行きにきれいにしてもらったっていう感じですかね。あれだけライト当ててもらって、きれいなところに。

○尾本 そう。私も展示の仕方、山下さんのあれでしょうけど、あれにはびっくりしましたね。

○新居 プロの展示の仕方に圧倒された。もう本当に1本ずつピンを打って立ててくれていて、本当に「うわー、こんなん大変やったやろう」って。(笑)

○河原 すごいっちゃい作品が多いから、見せ方がすごく大変だねって言っていたんですよ。

○伊藤 飾るのがすごい大変やと思う。

○新居 でも、そういう、私たち、お話が来たときにね、何を何体作らないといけないって、もうなんか必死になった。

○伊藤 ああ、そうでしたよね。それで、ここで持っていくのを分別したんやね。これね。

○新居 したね。

○伊藤 そうでしたね。本当でしたね。

○新居 でも、あんなにすごく面白く展示されているのには、もう本当に行ってびっくり。私、最初の日に行ったんよね、だから。(笑)

○伊藤 そうか、そうか、行かれていたんですよ。そうか、そうか。

○新居 本当にびっくりした。私のロールちゃんがこんなところにつて。(笑)

○藤岡 あのときにね、ロールちゃん作ってくださいっていう。(笑)

○新居 そうそう、何回もしたよね、みんなで。

○伊藤 足りなかったんですよ、何かね。

○河原 十分たくさんあったんですけど、もっと欲しいみたいなことになって。

○山下 河原さんとね、一緒にね、ずっとぽんぽんぽんぽん置いて、「やばい、足りないな」みたいな話になったんですよ。

○河原 「あれ」ってなって。「あると思ったのに」みたいな。

○山下 そうそうそう。

○河原 でも、すぐ対応して、皆さん作ってくださって。

○山下 本当にすぐ対応してくださって。めちゃめちゃありがたかった。

○河原 ものすごかったですよね。

○山下 びっくりしましたね。

- 河原 結構、展示の最中とかは業者さんが一個一個展示して下さるんですけど、すごく楽しそうでしたね。
- 一同 (笑)
- 新居 ああ、そうなんですか。いや、もう大事にね。もう、こんなもんとか。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 虫ピンで倒れないようにする作業とかもすごく慎重に、皆さんしてくださって。
- 新居 本当に。こんなもんなんて、私ら、しまうのぼぼぼって。(笑)
- 河原 結構、都築さんも、ドアノブの、藤岡さんのね。
- 藤岡 行っていただいて。
- 河原 何か急にいなくなったなと思ったら、ドアノブを手配しに出かけていて、「買って来た」とか言って。(笑)
- 藤岡 (笑)
- 河原 それをつけたりとか。
- 藤岡 ドアノブの値段を考えたらすごいなと思って。こんだけの毛糸の。(笑)
- 河原 すごく、結構、ここに図録を持ってきましたけど、結構大変でしたよね、山下さんね。会場を作るの。
- 西村 でも、私は、この飾りが自分が思ったのと、想像とまた違う。すごいわと思った。
- 新居 それで、ここに大きい西村さんの写真があつて。旅館の女房みたいな顔して。(笑)
- 西村 そうやねんや、もう本当に。(笑)
- 藤岡 入り口のところでね、新居さんのロールちゃんが。
- 新居 そうそう。
- 藤岡 もうすごい。
- 新居 これね、びっくりしたね。
- 伊藤 かわいい。
- 河原 街の人もびっくりしたと思いますけどね。(笑)
- 伊藤 びっくり。
- 河原 都築さんのイメージでは、皆さんの作っている作品が結構手のひらサイズとか小さいものが多いので、大きくしてびっくりさせたいというか。そういう、この都築さんが感じた魅力をどうにか伝えるっていうので、すごく大きかったですよ。
- 山下 そうですよ。

- 河原 そうしたら、すごかつこよくなつたっていう。(笑)
- 一同 (笑)
- 山下 めちゃめちゃかつこよくなっていますよね。
- 河原 すごいんですよ。こういう感じで、カラフルな、壁に、皆さんの。
- 藤岡 本当に大変やったと思う。
- 新居 というか、私たちね、もう本当に自分たちのものじゃなくて、何か傍観者やったね。(笑)
- 藤岡 わあ、すごいです。(笑)
- 新居 全体が面白かった。
- 藤岡 たくさん送っていただいて。(笑)
- 新居 一緒に行って。
- 河原 結構、会場に都築さんが考えた文章が入るようになっていて、雑誌の1ページみたいな感じの展覧会会場になっていたのかなと思いますね、僕は。この辺は、多分伊藤さんのレシピを大きく貼り出していたり。
- 伊藤 ああ、そうですね。本当ですね。
- 河原 伊藤さんのこれコレクションですね。この手芸キットと手芸本と。こういうのも、もともとの販売のところに問い合わせたりとか、そういうのもしてみたんですけど。
- 伊藤 していただきましたね。
- 河原 結構、もうなくなっちゃっている会社も多かったり、基本売り切りだから、在庫はないっていうこともおっしゃっていたので、何かもうここにあるものの貴重さがすごい。結構関係している会社の方が見に来て、感動していましたね。「これがある」みたいな。
- 山下 ああ、そうでしたね。そういうの、骨董市でしかも手に入らないような。(笑)
- 河原 (笑) そうですね。
- 新居 ちゃんと売っている、伊藤さん。
- 伊藤 一部私も。
- 新居 伊藤さん、ちょいちょい、ぽいっと100円とかいうて売っているから。
- 伊藤 飽きたらね。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 多分、見つけたら買っておいたほうがいいぐらいの、何か。
- 山下 そうですね。本当に。
- 河原 ちょっと売っていないのでね。

- 山下 売っていないですもんね、もうね。
- 河原 レアな。この辺は、まあキャラクター系の。
- 伊藤 キャラクター系ね。
- 河原 ちょっと名前が言えないようなキャラクター。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 まあ、いいんですけどね。
- 伊藤 愛がありますね。
- 藤岡 本当にこれも見事やったね、香坂さん。(笑)
- 新居 うん、すごかった。
- 河原 ビーズとかリボンとかね。
- 伊藤 そうそう。
- 新居 きれいかったね、あれ。何かきれいなケースに入れて、暗くしてあって、きらきら光って。(笑)
- 尾本 何か展示の仕方でも本当に違うと思って、びっくりしました、私も。
- 伊藤 ねえ。宝石みたいですもんね。
- 河原 そうですね。下が光っているみたいなの。
- 尾本 クリスタル。
- 伊藤 クリスタルですもんね。
- 河原 これはあれですね、都築さんが道の駅とかで出会った……
- 山下 鍋敷とかですよ。
- 河原 鍋敷とかの。何かほかの、自分が作ったものじゃないものとかを見たときの感想とかありますか。こんなのあるんだとか、これはまねしてみようとか、何かそういうものはありましたか。
- 尾本 すぐまねしたくなるね。
- 河原 そうですか。いいアイデアはすぐ使いたいみたいなの。なるほど。
- 尾本 あります、あります。
- 河原 何かほかにもありますか。すごく作り込みがしっかりしていた展覧会だったと思うんですけど、ふだんの皆さんのおかんアート展、年に1回されてきているものとかと比較して、よかったところとか、そうじゃないところとかありますか、何か。何となく思うこと。
- 尾本 展示の仕方がもう全然違うから、神戸でするときとはね。
- 伊藤 素人はできないね。

- 尾本 あそこまではできないわね。
- 伊藤 できませんよね。
- 尾本 あれはすごい。
- 河原 いつもは皆さん、自分たちで持ってきて。
- 伊藤 そうです、そうです。
- 河原 置いていくっていう感じですか。
- 伊藤 はい、自分たちがね。
- 藤岡 この頃は大分、新居さんが中心で。
- 新居 いやいや。
- 藤岡 壁の使い方が上手なんで。
- 尾本 そうそう。
- 新居 最近、そればかりが気になるんです。いろいろ見にいってもね。(笑)「これ、いいinchやうん、このやり方」とか言って。
- 河原 ああ、展示の方法に。
- 新居 そうそう。
- 河原 目が行くようになったんですか。それはもうキュレーターというか。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 照明が気になるとか、ありますよね。
- 藤岡 今度、白い手袋買ってきますから。(笑)
- 一同 (笑)
- 新居 本当に面白いんです、だからね、それが。だから結局、でもそれも工夫しようというか、安上がりでするって、安上がりいうか、廃材を利用するっていうのがすごく魅力的です。何かを利用して、わざわざ作っているんじゃないくて。基本はやっぱりそこかな。
- 河原 展示の方法も、おかんアートの作り方と少し重なっているというか。
- 新居 うん。そう。そうです、そうです。全部、あるもんです。これを利用して、そうしたら1回でも使ったことになるかなって。(笑)
- 河原 ああ、そこが大事なんですね。(笑)
- 新居 でも、また持って帰るんです、それを。(笑)
- 一同 (笑)
- 尾本 1回じゃ済まないのね。(笑)

- 新居 それで、また巻き巻きして作ったりしているんで。
- 河原 実は、渋谷の街でも、おかんアートがないかなと思って探していたんですよ。商店街とか。渋谷にも結構商店街が幾つかあって。ただ、あんまり見つけることができなかつたんですよ。結構ロールちゃんは眼科のロッカーの上にあつたりとか。
- 伊藤 あっ、すごい。
- 新居 へえ、そうなの。
- 河原 このくす玉というか、折り紙の玉のとかも整骨院の受付にあつたりとか。
- 伊藤 やっぱお医者さんの。
- 新居 やっぱそうねんね。
- 河原 あと、ちょっと古めの文房具屋さんに編みぐるみとかキューピーのビーズのとかもあつたんですけど、ちょっと問い合わせても、もうその作っていた方がいなかったり、患者さんだから情報は言えませんとか、ちょっといきなり行って情報をもらえる感じじゃなかつたりとか、作者にたどり着けなかつたっていうのがあつたんですよ、実は。だから、もうそれを経験すると、この下町レトロの皆さんとか、都築さんもそうですけど、作家によくたどり着いたなっていう。そこは本当にすごいなと思って。
- 尾本 関西人だからっていうあれも、絶対ね。
- 伊藤 それ、ありますよね。
- 尾本 ちょっと褒められたらね、それあげるし。(笑)
- 一同 (笑)
- 伊藤 ぺらぺらとしゃべっちゃうし。(笑)
- 山下 だから、ついつい個人情報をもう。(笑)
- 尾本 それは関西人。関東の人は違う。(笑)
- 河原 ちょっと間口が広いみたいな。
- 伊藤 そうですね。
- 河原 でも、この間、それこそ山下さんとちょっと京都の街を歩かせてもらったときに、すごく入り込むのがうまいというか。
- 山下 あっ、それ、伊藤さん譲り。(笑)
- 河原 それなんか、やっぱりこれまで下町ツアーをしてきた、その蓄積があつてこそその、皆さんにたどり着いたっていうのを思いましたね。あの京都の街の歩き方で。
- 山下 あれはちょうど京都に、京都でのおかんアートフェスの下見のときに皆さんと行ったその

帰りに、伊藤さんと街を歩く中で、もう伊藤さんが全部見つけていったところなんです。すごいですよね。

○新居 突撃で。(笑)

○山下 そうなんです。久しぶりに伊藤さんはやっぱりすごいなっていうのを感じました。

○伊藤 いやいやいや。

○河原 何か、たしか山下さんか伊藤さんか、僕が渋谷の調査がうまくいかないみたいな話をしたときに、常にアンテナを張って、張り続けていないといけないんだみたいな話をされていて、ローラー作戦は無理だみたいな。そんな簡単に見つかるもんじゃないみたいな。(笑) そんなことをおっしゃっていたような気がして。まさに本当にそうだし、常に見つけるアンテナを立て続けるっていうのは大事。

○山下 伊藤さん、でも、この間の京都のときはね、アンテナ立ってへんかったんですよ。

○河原 あっ、そうですか。

○山下 立っていないんだけど、伊藤さんが行くところに全部あったんですね。だから、私、前にアンテナの話をしたと思うんですけど、もうアンテナ要らないかもしれない。(笑)

○一同 (笑)

○河原 磁石ですか。(笑)

○伊藤 でも、興味ですよ。何か興味があれば引き寄せられるかもしれないですね。

○山下 寄ってきていましたね、あのとき。

○河原 呼び寄せてしまうのがあるのかもしれない。

○山下 呼び寄せるところがありますね。

○河原 ありがとうございます。

じゃあ、展覧会をすることで、皆さん、おかんアート展というのを毎年やられていると思うんですけど、結構規模の大きい渋谷の会場での展覧会を通して、広く社会に知れ渡った感じもあると思うんですけど、そういうことの反響とか反応とかは何かありましたか。周りから何か言われたとか、何か自分なりに感じたこととか。ちょっと2年前のことなんであれなんですけど。

ギャラリーの展覧会としては一番入場者数があって、もう非常に、コロナ禍とはいえ、すごい人が来た展覧会だったんですよ、やっぱり。反響もあったし、渋谷の街におかんアートっていう、その組み合わせもすごい、結構若者たちからもすごく反響があったと思いますし。

○山下 確かに、そうですね。

○河原 個人的に一番感動したのはですね、見ている観賞者の、来場者の方たちが、「あっ、こ

れ、うちのお母さんも作ってる」って言って、物すごく喜んでいた姿を見たんですよ。普通の美術館、ギャラリーは、そんなことって絶対に起きなくて。

○山下 確かに。

○河原 美術館で展覧会を見るときって、基本的にはそれに対して共感したり、「ああ、きれいな」とか、「ああ、不思議だな、でも面白いな」とか、何だか分かんないけど共感するっていう場だと思うんですけど、すごく共感の度合いが高くて、一体化するぐらいもう、「あっ、これ、お母さん作ってる。知ってるやつだ」みたいな。そういうのを見ると、「すごい展覧会だな、これは」と改めて思って、そのときすごく感動したっていうのをちょっと思い出しました。

○新居 子供さんが、ママのスマホを借りて、ばちばち撮っていたんがうれしいね。(笑)

○山下 連写していましたね。

○河原 撮っていましたね、ぐるぐる回りながら。

○山下 ぐるぐる回っていました。

○新居 あと、若いカップルが結構、あの場所だから来ているのか、さっきおっしゃったように、家にあるんじゃないっていうような話をしているだとか、もう私たちではあり得ない人の来場っていうかな。やっぱり同世代の人が多いしというのがあるんですけど、カップルの人が結構来ていたんが面白いな思って。(笑)

○河原 やっぱり、こう、何ですかね……

○新居 展覧会であんなにしゃべったり、きゃっきや言ったりするって。(笑)

○山下 結構盛り上がっていましたね。すごいそこが面白かったです。

○河原 盛り上がっています、お客さんが。それも、普通、しーんとしていますからね。笑いが起きたりとかも、普通しないですから。

○一同 (笑)

○山下 すごいめちゃくちゃ笑いが起きていましたね。

○河原 子供も何かテンション上がるっていうか。

○山下 「近寄り過ぎなさんな」とか怒られていましたもんね。(笑)

○一同 (笑)

○新居 「いや、別にええけど」言うて。(笑)

○山下 ええけどと思いつつ。

○藤岡 作った側からしたら……。

○新居 「ええのに」って。(笑)

- 山下 そうそう。(笑)
- 藤岡 私の作品のこのところで……
- 新居 「何やったらあげようか」いうて言いたいけど。(笑)
- 伊藤 不思議な感覚ですよ。
- 藤岡 まだできていないギャラリーに、美術館みたいな感じで並べてもらって、今まだ自分のものにはなっていないけれども、人に言うときには「東京でやったときはね」って。(笑)
- 一同 (笑)
- 山下 今のお顔も見せたいですね。
- 河原 そうですね。今の顔は、すごく劇画風になっていました。
- 山下 劇画風でしたね。
- 藤岡 この頃、テレビで「渋谷の」って言ったときに、「うんっ」って思わず。(笑)
- 一同 (笑)
- 藤岡 「私の街やん」いうて。
- 伊藤 ほんま、それ。
- 藤岡 でも、本当に自分のものが、そんな人に見ていただけるような展示のことをしてもらえるなんていうのがないし、本当勝手なことて図に乗ったことやけども、「東京でしたときはね」っていうような感じで言える、自分の何かいいものを持っているっていうか、何か隠しときたいねんけども、ちら見せしたいっていうのはありますね。でも、なかなか神戸の私らの周りでは、「東京で」言うたって、もう全然反応なし。(笑)
- 山下 神戸ではそんなに大きな動きはない感じですかね。
- 河原 なるほど。そこの東京の展覧会の痕跡みたいなものが、こっちにまではまだ届かなかった感じ。
- 伊藤 関ヶ原が越えられんかった。(笑)
- 新居 越えられないな。(笑)
- 一同 (笑)
- 新居 無視されてんねん。(笑)
- 山下 毎回関ヶ原が越えられない。
- 河原 大きいですかね。
- 新居 大きいですね。
- 伊藤 大きい、関ヶ原は。

○河原 広いですからね。多分、また渋谷でやったら、相当「あっ、これ見た」っていう人とか「見たかった」っていう人がすごく来ると思うし、関ヶ原は越えられるんじゃないんですかね。

○一同 (笑)

○河原 滋賀ぐらいまで。

○山下 一遍越えてみたいんですけどね。

○河原 京都がまた何か分厚そうですけどね。

○伊藤 分厚いですね。(笑)

○河原 なるほど。確かに、結構時間がかかるかもしれないですよ。自分のものがあぁやって展示されていて、皆さん東京来てくださったときも、結構、そこにいるんだけどいない感じっていうか、何か「わー」ってなっている感じがすごく印象的で、「皆さんのですよ」っていう感じだったんですけど。(笑)

○一同 (笑)

○伊藤 実感がね。

○河原 でも、一番、見てもらったときはうれしかったですね、皆さんに。すごく大変な中でつくった、もう山下さんが一番大変だったんですけど。

○山下 いやいやいや。

○河原 つくったものだったんで、相当、見ていただけたっていう感じで。

○新居 私たちは、もう本当に展示が大変だったんだろうなって言ってね、みんな感心しました。(笑)

○尾本 もう感動しました。私のしょうもない作品がこんなに。(笑)

○一同 (笑)

○河原 ありがとうございます。

○尾本 ありがとうございます。

○河原 じゃあ、ちょっと今後の皆さんの展望みたいな、展覧会が終わった後も、引き続きおかんアート展というのをこちらでやられたり、それこそ、この間の京都での展覧会もされていたんですけども、何かそういう活動を続けていく感じですかね。

○山下 どうですか、皆さん。

○藤岡 元気が続く限り。

○伊藤 何かテーマが健康みたいになっていますよね、今ね。(笑)

○一同 (笑)

- 新居 ちょっとね。
- 伊藤 今、健康っていうのがテーマになっていますね。
- 新居 健康ですよ。
- 藤岡 健康がついていないと動けないから、それはありますね。
- 河原 結構体力も要りますもんね。集中してぐっぐっと作ってね。
- 藤岡 結構自分たちでね、隣のバレエのところを使わせてもらうときは、自分らでシートを敷いたりも、体力仕事をやっていましたもんね。
- 山下 そうです。皆さんしてくださっていて。
- 河原 確かに体力仕事ですよ。
- 山下 体力仕事なんですね。何か私、ちょっと見ていると、やっぱりすごい若返ってはるんですよ。だから、何か今後の展望は、どこまで若返ることができるかという感じなのかなと思って。
- 一同 (笑)
- 河原 いや、変わらず元気だなと、皆さんに久々に会っても思います。
- 山下 そう、皆さん、元気。伊藤さんともいつもそんな話をしますね。
- 伊藤 いや、本当にね、元気なんやって。
- 山下 京都のあのフェスのね、会場のオーナーさんもめっちゃ食べはるねって。(笑)
- 河原 (笑)
- 山下 食べるのが「食べ力」っていう。
- 伊藤 あるよね。
- 山下 はい。本当に。
- 河原 ありがとうございます。(笑)
- 一同 (笑)
- 山下 すみません。(笑)
- 河原 皆さん元気というのが分かったということですね。
- 山下 はい、そうですね。
- 河原 ありがとうございます。
- 藤岡 また東京でという目標を持たせていただいて。
- 山下 本当ですね。またね、本当に、本当に。
- 河原 でも、本当に全国でおかんアートを作っていらっしゃる方がいるとは思んですけど、ここまで団結して楽しくやっているグループみたいなのはないんじゃないかなと思うし、コンスタントに

展覧会をしていたりとか、集まりもありますもんね、おかんアート大学をしていたりとか。

○山下 そうですね、月に1回ね。

○伊藤 山下さんはリーダーシップがすごい。

○尾本 そう。それは思う。

○伊藤 次はまた同じような会場のほうでやって。(笑)

○河原 (笑)

○新居 そのいろんな機会をもらえるっていうかな。学校に行ったり、若い人と会えたり。(笑)

○山下 何か中学校とか高校とかも今行ったりとかされているんで。

○河原 へえ。すごく若い方たちとやっているんですね。

○山下 そうなんですよ。

○尾本 それはやっぱりモリタさんとか山下さんがちゃんと組んでくださるから、引っ張ってくださる方がいるからなんで、私たちはついていだけなんです。

○山下 いやいやいや。

○河原 でも、まあ、お互いがあるってこそのっていう感じですね。

○山下 いや、ほんまにそうですね。ありがたいです。

○河原 その辺はすごい。

○山下 楽しいですもんな。

○河原 年を増すごとに、何かすごいチームになっていっているような感じもありますよね。

○伊藤 皆さん、大きい病気をさっていたりとかね、この間にお父さんがお亡くなりになったりですか、皆さん。

○山下 ほんま波乱万丈の中をたんたんとね。

○伊藤 めちゃめちゃかっこいいですよ。

○山下 すごいですよね。

○伊藤 めっちゃかっこいい。

○山下 ちゃんと期日に合わせて作ってくれはるし。(笑)

○伊藤 びして作ってきはるんですよ。めちゃめちゃかっこいいなと思って。

○山下 すごいです。

○河原 その辺は、しっかりプロフェッショナル。

○伊藤 すごいですね。

○山下 やっぱね、真面目です、皆さん。(笑) しっかりされてね。

- 伊藤 そうですね、もうこういうふうになを重ねたいと思います。
- 新居 どうしよう、そんな言われて。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 リスペクトがね。
- 新居 寝込んでいられへんね。(笑)
- 藤岡 でも、そういう目標を作ったださるから、それに向けて、まあある程度頑張るといのがいいのかどうか分かんないけども、受けて「できひんわ」じゃなくて、「ああ、何日までに何があるから」という目標をもらって、それで頑張れるっていうか、やり遂げようという目標ができますよね。
- 尾本 いつまで続くか分らんけどね。(笑)
- 伊藤 でも、みんなにね、できる限りもう全力やから、言うことないです。
- 河原 ありがとうございます。
- 伊藤 ありがとうございます。
- 河原 さて、まだまだお話を伺いたいところですが、そろそろ終了の時間が迫ってまいりました。それでは、今日の収録の感想を皆さんにお伺いしたいと思います。いかがでしたでしょうか。一言ずつ、皆さん、何かありますか。
- 収録というか、おしゃべりというか。(笑) でも、何か改めてどういう出会だったかとか、おかんアートについて皆さんどう考えているかとか伺えたので、「ああ、なるほど」という感じで、すごく面白かったんですけど、こういう話を皆さんがするということ自体あんまり、実は、改めてというのはないかもしれない。
- 尾本 あんまりないですね。
- 河原 なるほど。じゃあ、そういう意味でも貴重な。
- 伊藤 はい。
- 尾本 ありがとうございます。(笑) 本当に。
- 河原 またラジオとか関係なく、こういった話もふらっと来てしたいなと、個人的に思いました。
- 一同 ぜひぜひ。
- 河原 どんな作品を作っているかとか、また見せていただきたいです。ありがとうございます。
- じゃあ、ありがとうございました。短い時間でしたが、今日は下町レトロに首っ丈の会さんとおかんアートチームの皆さんにお話を伺いました。
- 展覧会を軸に振り返りつつ、皆さんの活動を伺うことができ、とても貴重な機会となりました。ラ

ジオをお聞きの皆さんの街や家の中にも、もしかしたら素敵な逸品が眠っているかもしれません。もしも、これはという作品に遭遇した方は、ぜひ教えていただけると嬉しいです。必ず皆さんの家にあると思います。

それでは、これにて下町レトロに首っ丈の会さんの回を終了いたします。皆さん、本日はどうもありがとうございました。

○一同 ありがとうございました。